

第5学年社会科学学習指導案

日 時 令和5年9月21日(木)5校時

学校名 小金井市立緑小学校

対 象 第5学年3組 32名

授業者 西崎 翠

1 単元名「これからの食料生産とわたしたち」(全6時間)

2 小単元の目標

我が国の農業や水産業における食料生産について、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産への課題を捉えられるようにする。また、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追及・解決しようとする態度や、学習したことを基にこれからの農業などの発展について考えようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。 ② 調べたことを図表や文などにまとめ、食の安全・安心の確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。	① 食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、問いを見出し、食料生産の課題について考え表現している。 ② 食料自給率と食生活の変化を関連付けたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習してきたことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。	① これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追及し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に、これからの農業などの発展について考えようとしている。

6 本時の内容(1/6時間)

(1) 本時の目標

食料自給率に着目し、話し合うことを通して、日本の食料生産の課題について問いを考えることができる。

(2) 本時の展開

	□学習活動 ○発問 ・児童の反応	◇指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>□家庭学習において調べてきたことを共有し、身の回りには輸入品が多いこと、国産と外国産では価格に差があることに気付く。</p> <p>○水産物の学習では、輸入が増えているということが分かりました。実際に見てきて、国産は多かったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物は中国やノルウェーなど外国産のものが多かったよ。 ・「サーモンはノルウェー」など、種類によって国が決まっていました。 ・「カツオは高知」など、日本のものだったたくさんありました。 ・肉はアメリカやカナダが多かったよ。 ・外国産の方が安いからだよ。 ・たしかに、さんまは今年も高いってニュースで言っていました。 ・国内産と書いてあるものは少なかった。見付けにくかった。 ・国産の割合は結構低そう。 	<p>◇事前に家庭学習を行うよう伝える。内容は、「国産は多い？少ない？スーパーマーケットの魚売り場と肉売り場に行き、実際に調べてみよう」というものである。家庭学習の前にあらかじめ予想しておき、意欲を高められるようにする。</p> <p>◇魚売り場と肉売り場の写真を提示し、想起できるようにする。</p> <p>◇水産物→肉と順に確認する。</p> <p>◇国産と外国産の値段の違いについては、発言が出た際に提示資料を用いて全体で押さえる。</p>
展開	<p>□食料自給率について知る。</p> <p>○国産が少なく、外国産が多いということが分かりました。割合の話もしていた人がいましたね。このように、自分の国で必要な食料を自分の国の中でどれくらいまかなえるかという割合を「食料自給率」と言います。</p> <p>□2023年の日本の食料自給率がどれくらいか考え、主な国の食料自給率と比較する。</p> <p>○今年の日本の食料自給率は何%くらいだと思いますか。</p>	<p>◇食料自給率が0%、100%、200%の場合はどういう意味なのか、「輸入」「輸出」という言葉とともにおさえる。</p>

- ・スーパーで見たものから考えると半分くらいではないかな。
- ・お米の生産量がかなり多いから、75%くらいかな。
- ・でもお米を食べる人も減って、パンを食べる人が増えているから、50%もいってないのではないかな。
- ・日本の食料自給率はかなり低いって聞いたことあるよ。

○日本の食料自給率は38%です。この数字がどのようなものなのか分かりづらくかもしれないので、他の国と比べて見ていきましょう。

- ・日本とイギリス以外100%を超えている。
- ・カナダはどうしてこんなに高いの！？
- ・日本は低すぎるよ。
- ・当たり前だよ。だって小麦などはほとんど輸入なんだよ。

□食料自給率が低いことにより起こる課題に気付く。

○「低すぎる」「良くない」と言っている人がいますが、食料自給率は低いとなぜ良くないのですか。

- ・ロシアとウクライナの戦争のように輸入相手国で何かあった時に困るのではないかな。
- ・たしかに、小麦も高くなった。
- ・異常気象でも輸入できないのではないかな。

□学習問題を作る。

○たくさん課題がありそうですね。このままでは良くないと言っている人もいますね。これらのことを調べられる学習問題を作りましょう。

◇ペアで考える。

◇理由を共有する。

◇イギリス(日本より少し高い)、アメリカとフランス(100%を超えている)、カナダ(200%を超えている)を順に提示し、日本の食料自給率の低さに着目できるようにする。

◇他国と比べて食料自給率が低いことが良くないのではなく、日本が低いこと自体が問題であることを押さえる。

◇ペアで考える。

◇学習問題に必要なキーワードを板書しておき、それらを基に立てられるようにする。

◆話し合いを基に、日本の食料生産の課題について問いを考えている。【態度】(発言・ノート)

学習問題 日本の食料生産にはどのような課題があり、わたしたちは、これからどのように関わっていけばよいのだろうか。

ま □次時の学習内容を知る。
 と ○次回は、学習問題に対する予想をし、そこから学習
 め 計画を立てていきましょう。

